

学校建設

小・中学校建設

今年度は9地域に21棟99教室の校舎、18棟70室のトイレ、1棟10室の教員養成学校の教室棟を建設しました。これにより2010年3月末の時点でカンボジア各地での校舎建設数は241棟となりました。(ラオス1棟を含む。)今年度は初めて遠隔のクラチエ県、コッコン県で学校建設を行い、JHPの支援地域はカンボジアの24県中、17県に広がりました。(ブンペン市含む)

今年度は52校の建設要望が寄せられ、駐在員が直接現地を調査し、①教室が足りず2部制以上で授業を行っている学校

②老朽化により授業の実施が天候等で左右される学校などいくつかのチェック項目を勘案したうえで東京とも協議し、優先順位の高い学校から建設を行いました。

また、ここ数年、建設対象(要望)が小学校、中学校から教員養成学校(師範学校)にまで広がっています。その中で今年度は教員養成学校では多目的の教室棟を建設しました。



ダングリーン小学校(クラチエ県第一号校舎)

教員養成学校建設

2007年10月バタンバン県の小学教員養成学校から教室棟建設の要請を受けました。2008年9月に調査を行った結果、2棟の寄宿舎には8室ずつ寄宿室(8.0m×6.0m)があるものの、教室が不足しているため、寄宿室を教室代わりに使用していることが判明しました。また、寄宿室全16室のうち、10室を教室として、1室を荷物置場として利用していました。そのため、約100人いる女性寄宿生は5室で生活、約80人いる男性寄宿生は近隣の小学校の教室を間借りして生活していました。この結果、通常は1室10人で利用する部屋を、20人以上で利用している状況となっていました。教師不足が問題となっているカンボジアでは、現在教員養成に力を入れており、早急に事業を行い、教員、学生のニーズに応える必要があると判断し、国際ボランティア貯金から助成金を受け、2009年4月より2階建て1棟10室の建設を着工し、2010年1月に贈呈式を行いました。この教室棟が完成したことにより、寄宿舎を教室として利用することなく、生活環境が改善され、教員養成のための教育環境が整備されました。



小学校教員養成学校完成校舎



学校への贈呈品(学校数17校)

先生用	
ノート	668
ボールペン	668
扇子	200
制服(女性用)	57
スカート(女性用)	23
ベスト(女性用)	46
生徒用	
ノート	17,140
ボールペン	16,970
えんぴつ	6,830
ブラウス(女性)	270
スカート(女性)	270
ベスト(女性)	270
学校用	
世界地図(各教室に1枚ずつ)	86
ボール(各教室に1個ずつ)	81
鉛筆削り(オフィスに)	17
時計(各教室に1つずつ)	86
ゴミ箱	86
衛生教本	850
富士山の写真	17
運動帽子	600
縄跳び	8
サッカーボール	8
空気入れ	3
折り紙	1,000
チョーク	300
コミュニティ建設協力者	
シャツ	513
トレーナー	28
Yシャツ	129
バッグ	47
ジャンパー	40

※このほか支援者の方々が直接持参された贈呈品もたくさんあります。

専門家による 現地視察

国際ボランティア貯金の事業として、7月15～23日まで、会員である一級建築士の青野達司氏を派遣しました。今回は、バタンバン県教員養成学校を中心に、コンボンブー県教員養成学校寮(2004年度完成)など合計6校を訪問。建設中や建設後の校舎状況に関するアドバイスを受けることができました。



バタンバン教員養成学校の監督を行う青野氏

既建設校の視察 (フォローアップ)

JHPの契約では、カンボジアの建設会社による保証は3年間としています。これに伴って6ヶ月、1年、2年、3年目と建設後のチェックのため現地調査を行っています。

また、チェック時に発見した問題点は、建設会社と話し合い、建設会社、JHP、地域等の分担で補修を行っています。

本年度は71校を視察。カンダール県のストゥントゥルー中学校(2008年2月に2棟9教室、トイレ、井戸を寄贈)を視察した際は、ドアや窓の蝶番に問題が多く、再溶接が必要と分かりました。しかし学校の予算が足りず、また、建設完了から3年以上は建設業者負担で修理をする契約があるため、業者に修



ロー小学校最終協議の様子

理を依頼しました。また、JHPと長年付き合いのある建設業者は、保証期間が過ぎた既建設校も自主的に見て回り、必要に応じて修理を行っています。

学校側の自主性だけでは、積極的な補修、修理を行うことは難しいため、JHPが定期的にチェックを行い、状況を把握し、学校側や業者と現状を確認しあうことを促すことで、支援設備はより良好な状態で維持できると考えています。

建設後の状況 (モニタリング)

～ロー小学校建設後の状況から～

①調査時の状況

要請を受け、2009年4月に調査を実施。既存校舎は2002年築木造1棟2室のみで、1クラスは校舎の廊下、1クラスは木の下、2クラスは小屋(トタン屋根、壁なし)で授業が行われていました。雨が降ると、これらの4クラスは授業が行えず、子ども達は帰宅していました。事務室、井戸、トイレ、図書館はありませんでした。

②建設の状況

学校からの依頼を受け、ドナーさんの考えと合致したので1棟5教室の校舎とトイレ1棟3室、井戸1基を建設、2010年3月に完成しました。(→右段「副校長と児童からの感想」参照)



ロー小学校旧校舎



ロー小学校新校舎と井戸

ロー小学校の副校長と児童から感想を聞きました



クット・ソムケン副校長
(5年生担当)41歳



ムン・スレイニッチ
14歳 5年生

新校舎ができて大変幸せです。旧校舎は、教室数が少ないため授業の運営が難しく、屋外でも授業をしないと行けませんでした。屋内の2教室も、壁が無いので、生徒が集中しづらい環境でした。雨が降ると屋外はもちろん、屋内の教室でも壁が無いので雨が教室に入り、授業を継続する事ができませんでした。この新校舎では、これらの問題が解決され、生徒は勉強に集中でき、私も、学校運営がより行いやすくなりました。

新校舎で勉強できて嬉しいです。以前は、木の下や、雨漏りがひどい屋内の教室で勉強していました。風が強い時に、木の枝が落ちて子ども達に当たった事もありました。新校舎は、涼しく、雨が降っても勉強ができます。教室内の黒板、机や椅子もきれいで嬉しいです。好きな科目は算数と英語です。将来は、先生になりたいです。

ロー小学校贈呈式で感動させられた話

それは外務長官のスピーチ中の出来事だった。赤児を抱いた母親がトコトコ出て来て植樹用の井戸水で赤児に水浴びをさせ、何事もなかったように去って行った。長官の話はまだ続いていた一瞬の出来事だった。乾季も終わりに近づき村の溜め池の水はミルク紅茶色。新しく掘った井戸の水はバケツの底が見えるような水だった。

(JHP副代表理事 今川純子)